

御所湖随想

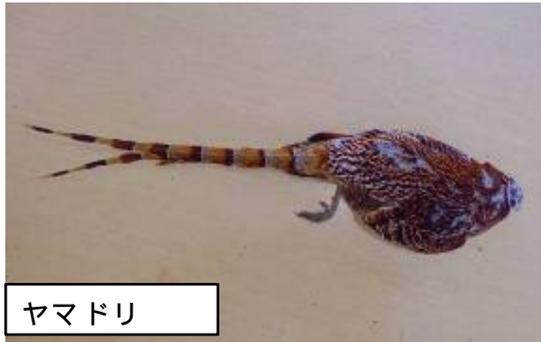
H22年3月 No.7

あ～何で？

2月から3月始めにかけて、鳥の事故が立て続けに起きている。管理事務所玄関ガラスへの激突である。

ヤマドリ、玄関ホール of 天窓を突き破り、即死。
アオゲラ、玄関扉にぶつかり、死亡。

ヤマドリは、雄がぶつかって死んでいるのを朝発見した、その翌日、昼休み時間にドーンとガラスにぶつかって、何かと驚かさせられた。見れば、ガラスが飛び散りヤマドリの雌。夫婦の片割れが後追い自殺か。夕方、事務所周りを片付けていたらもう1羽の雌が死んでおり、都合3羽となった。ファミリーが一度に川を渡るとは、……



鳥の形態観察には、願ってもない標本になる。とってしまうと「なんと冷徹な！」という避難を浴びそうだが、キジにしるヤマドリにしる狩猟鳥であり、死因のわからない遺体を食うことは危険だが、生命を粗末にしないという意味では、懇ろに胃の中に葬ってあげてもいいのではないか。

羽の色の美しさ。模様の繊細な配置。自然とは実に巧妙で機能的なんだろうと感嘆のため息しか出ない。

アオゲラの羽の色合いは、光沢があり、陽の光を浴びるととてもきれいな鶯色に輝く。風切り羽の白と紫の縞模様もシックで落ち着いた色合いだ。

鳥の羽には常に油脂が分泌されて、雨にあっても体表面まで浸み込んでいかない。そのため保温できるようになっているのだが、その油成分が陽の光を反射してきれいな光沢のある色合いを出しているのだろう。鳥の体をそっと抱くように移動させた後、手のひらにさらっとした油分を感じるの、羽の油のせいだろう。



今回は、この2種4羽の鳥の冥福を祈り、筆を置く。